

竹のお話

驚異的な繁殖力と驚くべき効能の数々を持っている「竹」のお話を・・・・・・・・

竹の効能と浄化作用

竹は抗菌、鮮度保持能力に優れた素材として知られています。昔の旅人は、竹の皮でおむすびを包み、竹の水筒に水を入れ長旅へ備えましたが、これは竹の鮮度保持能力、抗菌作用を利用した先人の知恵であったといえます。

また「竹細工の職人は水虫にかからない」といわれているそうですが、実際に竹の含有成分中に白セン菌（水虫）に対する抗菌物質が発見されたそうです。一方、中国では竹のエキスは万病の秘薬とされており、現代医学でも制ガン効果があるとされている多糖体物質が、多く含有されていることが判っています。

動物の世界でもその効能を垣間見ることが出来ます。竹の笹を主食にするパンダの糞が全く匂わないのは、竹の含有成分に異臭を分解する物質を多く含んでいるからであり、野生の熊はその効能を利用し、狩りの前に竹の笹を食べ、体臭や息の臭いを抑えていると言われています。

驚異的な生命力と環境問題

竹の生命力には驚異的なものがあります。研究者の間では有名な話なのですが、ベトナム戦争の枯れ葉剤にも、広島原爆にも、唯一生き残った植物は「竹」でした。広島原爆の爆心地近くの竹は黒く焼けただけのはしたものの、一年後には完全に再生されていたという報告が残っているそうです。

通常竹は60～80日で14～15mにまで生長します。その後成長を止め、3年以上経てば有効資源として活用出来る成竹になります。これは、通常木材ならば50年を要する期間に相当するので、森林伐採が問題視される中、代替資源として注目されるべき資材であると言えるでしょう。

逆に、竹を利用せずに放っておくとどのような事になるか。まさに今、日本ではその問題に直面しています。手入れをしていない竹林は、その繁殖力ゆえに見境無くその領土を拡大して森林を浸食し、日光を遮り下草を枯らし、生態系へ深刻な影響を与えていきます。

また自然界だけでなく、がけ崩れなどの災害を助長する結果を招くことが問題視されています。

これらの放置竹林が近年急激に増加している要因は、国産のタケノコや竹材の需要減に他なりません。一旦繁殖すると駆逐が容易では無い放置竹林。今後はこれらの問題を解決する意味でも、積極的に竹資源を利用していく必要があるでしょう。

竹には低伸縮性という大きな特徴があります。湿気が多い日本ではこの条件を満たす素材が非常に重要です。化学素材に取って替わるまで、計算尺や物差し等に竹が使われてきたのは、抜きんてた低伸縮性のおかげです。

現在これらの特性を活かし、消臭剤などの様々な製品開発が行われています。また、建材としても優れた資質を持っていることから、シックハウス症候群対策として住環境へ取り入れる事が注目されています。また、その旺盛な繁殖力で年々増加する一方の放置竹林被害を抑制する意味でも、積極的に竹資源を活用していく必要があるでしょう。